

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：奥田和也

所属：町田市立本町田東小学校

記録日：2017年 2月 27日

キーワード：構音障がい、自信、発表、SNS、動画・写真

【対象児の情報】

- ・学年 小学校4年生 女児
- ・障がいと困難の内容
構音障がい（側音化構音）

側音化構音（呼気が側方から出てしまい正しい音が作れない誤り方）であるため、小学校入学と同時に言語障がい学級に入級した。就学前から教育センターで構音指導を受けており、継続する形で構音の指導を行った。特にイ列の音（イ、キ、シ、チ、ニ、リ）が歪んでいた。現在、言語障がい学級での指導時間内では概ね改善できている。

発音に無意識な日常的な会話内などで「リ音」が聞き取りづらいことがある。保護者から、家庭内では「もごもごとしゃべり、聞き取りづらいことがある」と相談を受けている。

聞き返されることや、うまく言えないことにストレスを感じている様子が見られ、思いがあっても自分から周囲に働きかけることは避けようとする姿が出てきている。

【活動進捗】

- ・当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況
 - 1、今のままの自分を認め、話すことに自信をもつ。
 - 2、コミュニケーションの方法を広げ、やりとりを楽しめる。
 - 3、困ったときの解決方法について見通しがもてる。

構音の状況は大きく改善してきているが、「みんなと同じようになめらかに」ということは難しい場面もある。訓練の期間や現在の年齢を考えても、おそらくは今後も構音の課題と付き合いながら成長していくことが想定される。

そこで、これまでに行ってきた構音の般化に向けた指導に加え、彼女が自分に自信をもち、楽しく過ごせるようになってほしいと願い、ねらいの1と2を設定した。また、今後も構音の課題とつきあっていくことが想定される彼女にとって、困った時に相談できる場所や人があったり、解決するための方法をもっていたりすることが、安心感につながる重要な視点になると考え、ねらい3を設定した。

- ・実施期間 2017年4月から2018年2月
- ・実施者 奥田和也
- ・実施者と対象児の関係 言語障がい学級 担当（週に1時間 在籍校に教員が訪問個別指導）

【対象児の事前の状況】

1、話すことについて

- ・構音の課題の多くは改善してきており、聞き取りやすくなっている。意識的に発音に取り組める言語障がい学級での指導時などでは正しく発音することができている。発音に対して無意識になる日常的な場面において聞き取りづらくなることもあると保護者から相談があった。
- ・発音を意識する場面では正しく発音できているため、現在は構音を直接指導する時間を設けず、話す活動内で確認する程度に留めている。
- ・「友達に聞き返されることがある」と相談があった。
- ・授業中に意見を発表することをためらうことがあると、言語障がい学級での指導中に言っており、不安を抱えているようである。
- ・授業中のグループ活動は「しないわけではないが積極的ではない」と担任より聞いている。
- ・発表に対して消極的である。理由を聞くと「恥ずかしいからである」と答えた。
- ・言語障がい学級から在籍級に戻る際に他学年と会うことを避けたり、途中まで一緒に来て欲しいと要望したりすることがある。
- ・授業中に積極的に挙手しない。
- ・ノートには答えを書くことができている場面で、担任が指名しても小さな声でボソボソと言ひ、すぐに座ってしまうことがあった。

2、コミュニケーションについて

- ・クラス内に親友がおり、放課後などによく遊ぶ。絵を描いて遊んでいることが多い。
- ・全校朝会での異学年交流ではグループから体一つ分外れた所に座って、話し合い活動に積極的に参加していないことがあった。
- ・保護者との会話でも上手く聞き取ってもらえず、ストレスを感じることもある。
- ・親友以外に自ら話しかけたり遊びに誘ったりする姿はあまり見られない。言語障がい学級での指導中の会話で登場する友人もその親友であることがほとんどである。
- ・昨年度、意見が上手く伝わらないことを理由にクラスメイトとトラブルになったことがある。

3、困ったときの解決方法について

- ・母と話す際に、上の兄弟に会話を取られ、「もういい」と話すことをやめることがあった。
- ・言語障がい学級での指導中に「困ったことはない？」と聞くと「ない。」と答える。
- ・話の伝わりにくさについて、保護者や担当者に相談をしてきたこともあったが、途中で本人が拒否し始めることも多く、「やってみる」や「相談してよかった」という体験にはつながっていない。
- ・親友には何でも話すと言っている。

4、得意なことや好きなこと

- ・絵を描くことが得意で、物を作ることに興味があった。3年生のとき前担任が異動することになった際に手作りのプレゼントを贈っていた。
- ・学習の面では前担任、現担任から共に大きな遅れはないと聞いている。言語障がい学級での指導中でもまだ習っていない漢字を「知っているよ」と積極的に書く姿が見られる。算数や理科の学習が得意であると話す。
- ・4月から学校の合唱団に参加するようになり、休み時間などに活動することを楽しんでいる。

【活動内容と対象児の変化】

1、今のままの自分を認め、話すことに自信をもつ。

① 先行学習への取り組み

活動の具体的内容

考えや答えをノートに書くことはできていたので発表に自信がもてるように、得意な分野をさらに伸ばす先行学習に取り組んだ。まずは理科が得意である児童がより自信をもって学級内で学習に取り組めるよう、NHK for school (<http://www.nhk.or.jp/school/program/>) を紹介し、理科の学習に取り組んだ。在籍学級では体育の授業でNHK for schoolを活用しており、苦手な跳び箱のポイントを復習することもあった。

また算数の学習においてNHK for school内で知りたいことが見つからなかったときに、NHK for school以外にもインターネットには学習用の動画があるという担当者の言葉を受けて、「YouTube」などの動画サイトを検索して学習に関係する動画を見るようになった。

自宅のパソコンでも保護者と一緒に見られるようにブラウザで検索をして見る方法を学んだ。



対象児の事後の変化

動画を見て学習することを気に入り、自分から探すようになった。算数の図形に関する動画を見た後、授業内で考えを取り上げられる機会があり喜んでいった。

授業中にクラス全体への発問場面で自信があるときは、挙手することが少し増えたと担任より聞いた。基本的に一言で答えられる回答の場面である。

② 制作活動を通してコミュニケーションを広げる

活動の具体的内容

児童の得意な物作りを通してコミュニケーションの場面を広げること、児童から積極性を引き出すこと、「こんな風にしてみたい」という意欲と、それに伴い聞いてみようとする勇気を出せることをねらいとして制作活動に取り組んだ。3学期になり、学級に転入生が来ることになった。新しい仲間が増えることを喜んでおり、楽しんでもらいたいと言語障がい学級で話していた。そこでプレゼントを贈り歓迎の気持ちを伝えることを担当より提案し、活動に取り組んだ。

(1) プレゼントを決める

転入生が来ることを知ってどんな気持ちか、どうしたいのかを話し合った。児童から「遠い所(関西地方)から来るから不安があるかも」「話しかけられたり、関わってもらえたりしたら嬉しく感じると思う」といった意見が出た。これらは児童の経験や感情を反映していると考えられる。

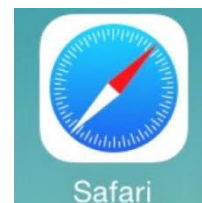
担当より「プレゼントを作って贈ってはどうか」という提案を受け、何を作るか相談した。

「可愛いもの」「実際に使えるもの」「転入生の好きなキャラクターのもの」がいいという意見が出た。消しゴムハンコを作って贈ることに決定した。

(2) 活動の計画を立てる

必要な材料や道具、作り方をインターネットで調べ、イメージを膨らませた。材料の中でトレーシングペーパーは児童が知っているものであったため、自分でやるという意識をもてるように児童が準備することとし、その他の材料は担当が準備するように役割を分担した。

転入生がどのようなキャラクターや物が好きかインタビューすることに決めた。一度言語障がい学級でインタビューの練習を行い、聞く事柄について確認をした。



(3) 制作活動

インタビューを元に作成する図案を決定した。言語障がい学級時間に消しゴムハンコ作りに取り組んだ。作り方はインターネット上の動画を参考にし、何度も見て学んだ。安全面には留意し、刃の向いている先や手の置き方は作業の度に確認をした。

家庭での空き時間を活用できるように、材料や道具が入るポーチを用意し、ひとまとめにして、持ち運びやすくした。



対象児の事後の変化

作成することになったキャラクターを通して転入生及びクラスメイトと楽しく会話をするのができた。また自分から話しかけることが苦手であると話していたが、「好きなキャラクターインタビューは自分から行うことができた」と話していた。

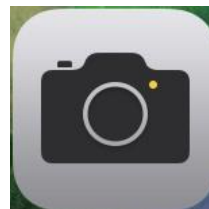
1月の社会科見学では転入生と同じ班になり、「寂しくないように積極的に声をかけるようにした」と話した。

③ 正しい音の作り方をより上達させたい

活動の具体的内容

正しい発音を理解し、自分で正しい発音へと近付けていく力を高めるために録音機能を活用し、見本の音と自分の音の聞き比べや聞き直しを行なった。自分の発音した音の中からモデルとなる音を見付け、正しく発音できている「良い音探し」をすることをねらいとした。

録画機能を使い、自分の発音時の口形や舌の動かし方を映像で見直した。



対象児の事後の変化

正しい音と誤った音を区別する力が高まった。また「今できていたよね？」と自分の発音を振り返る機会が増えた。

録画機能を使い、正しい発音のときの舌の形を自分自身で確認できた。「こういう形になればいいんだよね?」「力が入ってこうなる(舌が波打つ)とダメなんだよね。」とより理解を深めることができた。

2. コミュニケーションの方法を広げ、やりとりを楽しめる。

活動の具体的内容

① 話す以外のやり取りを楽しむ

音声だけでないコミュニケーションを学ぶために、閉じられたSNSである「By Talk for school」を活用した。使用者は児童と担当者のみでチャットのようにやり取りを行った。基本的な使い方を指導時間内で学び、その後タブレット端末を自宅に持ち帰って使用した。

話す以外のやり取りを広く楽しんでもらうため、話す内容は自由に様々なもので良いこととした。学校のことや放課後のこと、勉強のこと、休日にお出かけしたことなど何でも話題にしていいことを伝えた。「おはようございます。」などの挨拶や友人と遊んだこと



を送ったり、自宅で飼っているペットの画像を送ったりした。

使用し始めてすぐに絵文字や顔文字を使うようになった。指導時間内で操作方法を確認した。本児童の姉が同じタブレット端末を持っているため、操作方法を担当者だけでなく姉に教えてもらうようになった。毎日のように活用して送っている。

対象児の事後の変化

当初は写真を送ることが中心だったが、次第に質問を行うようになった。質問内容も住んでいる所や年齢などから、内面に関わることも及ぶようになった。

花火大会についてのやり取りでは「担当者」が話題に登場した。



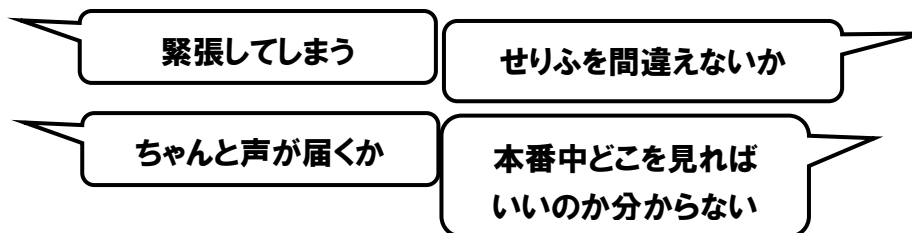
3、困ったときの解決方法について見通しがもてる。

発表への取り組み

活動の具体的内容

「By Talk for school」をきっかけとして、学習発表会での発表を不安に思っていることを指導時間に話すことができた。何を不安に感じているのか明確にし、一つ一つに対してどのように対応したらよいか担当者と話し合った。

児童から以下のような言葉が聞かれ、不安な気持ちであることが分かった。



緊張することそのものは悪いことではないことを、元プロ野球の松井秀喜選手のエピソードを通して学んだ。ナレーションの読み、「2020大会（にいまるにいまるたいかい）」などの言いにくい言葉を取り出して練習した。母音を強調するために「あいうえお」の口の形を意識し、音を粒立てること「に・い・ま・る・に・い・ま・る・た・い・か・い」を練習した。

また聞き取りやすい話速を目指した練習を行った。速さの目安はメトロノームなどの数値的なものでは示さず、録音機能を使って自分が想像していた話速と実際に聞いてみたときの話速の違いを理解することをねらいとした。

遠くまで届く発声や声を遠くまで届かせるために、立ち位置の対角線にある体育館の非常灯を見ながらせりふを言うことを目標とした。発表のときの姿勢や目線を体育館の見取り図を描きながら具体的に想定した。

対象児の事後の変化

自分が聞き取りやすいだろうと思っている速さと実際に聞いてみた速さに違いがあったことに驚いていた。練習をしていく中で、一つ一つのせりふをゆっくりと話すようになり、「聞き取りやすく言えたと思う！」と聞き取りやすさに意識を向けることができた。

本番では緊張しながらも上手に発表ができたと喜んでいて。観劇した保護者からも上手にできていたと褒められた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

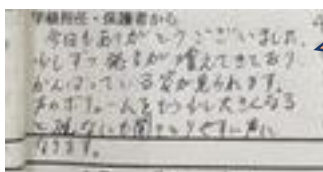
- ・学習発表会の練習を通して積極性が出てきた。また本番が成功経験となり、人前で発表することに自信をもてるようになった。
- ・活動全般において、積極性が見られるようになった。

○気づきに関するエビデンス

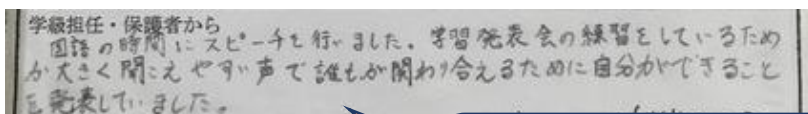
担任からの聞き取り

- ・前時の振り返りや教師からの発問に回答するときなど、授業中に挙手して発言することが増えた。
- ・班での話し合い活動でも意見を述べることができた。
- ・レクリエーション係として積極的に活動してくれている。係内の仕切り役として声掛けをしてくれている。クラス遊びの企画・ルール説明を立候補して行った。

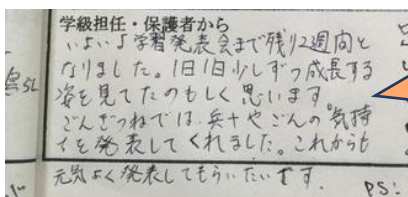
担任からの連絡帳のコメント



少しずつ発言が増えてきており、がんばっている姿が見られます。声のボリュームがもう少し大きくなるとみんなにも聞き取りやすい声になります。



国語の時間にスピーチを行いました。学習発表会の練習をしているためか大きく聞こえやすい声で、誰もが関わり合えるために自分ができることを発表していました。



いよいよ学習発表会まで残り2週間となりました。1日1日少しずつ成長する姿を見てたのもしく思います。ごんぎつねでは兵十やごんの気持ちを発表してくれました。これからも元気よく発表してもらいたいです。

